

## 令和3年京都市はたちを祝う記念式典 門川大作京都市長からのお祝いメッセージ

皆さん、こんにちは。京都市長の門川大作です。

二十歳という人生の新たな門出を迎えられた皆さん、おめでとうございます。御家族の皆さん、御縁の深い方々とともに、心からお祝い申し上げます。

コロナ禍という厳しい状況の中で、皆さんも様々な制限を受け、困難を感じておられることと存じます。同時にコロナ禍によって、様々な社会的課題が顕在化してきました。これらをしっかりと共々に、克服していきたい、そのように思います。

さて、これから、ウィズコロナ、ポストコロナ時代、激動の時代に皆さんは果敢に生きていかれます。そんな時に大事にしてほしい2つのことを、まず、申し上げたいと思います。

1つは、私の経験からありますが、「人生に無駄なことなし」であります。50歳の時に、お医者さんから胃がんの宣告を受けました。目の前が真っ暗になりました。しかし、その時に父の言ってくれた言葉、「百人の聖人の話を聞くより、1つの病に向き合った方がいい。勉強の機会だ。」。私は「勉強の機会か」と思い直しました。そして、43日間の入院生活、いろんなことを学ばせていただきました。今の私があるのは、あの43日間の入院生活だと思います。胃は半分になりましたが、本当にありがたい機会でありました。

もう1つは、「迷った時は困難な道を選ぼう」であります。人生、迷うことが度々あります。合理的な判断も、もちろん必要であります。しかし、迷ったら、楽な道か困難な道か。困難な道を選んでください。たとえそれが失敗しても、それは教訓になります。楽な道を選べば、後悔になります。教訓を積み重ねて、素晴らしい人生を送ってほしい。よろしく申し上げます。

さて、皆さんが育たれたこの京都は、千年を越えて発展し続ける世界でも稀有なまちであります。私は市長就任以来、このまちをもっと魅力的なものにとすることで、市民の皆さんと、また、議会でも議論していただき、全国トップ水準の教育、福祉、子育て支援、文化、安心安全のまちづくりを進めてまいりました。京都のまちは大きく発展しました。都市総合力3年連続日本一など、国内外から高い評価を受けております。

一方、元々、厳しい財政、このコロナ禍によって、より危機的になりました。ここで、あらゆる政策を持続可能なものにしなければならない。今、オープンな場で、侃々諤々の議論をしております。皆さん、若い世代の人々が、しっかりと未来に展望を持てる、そうした持続可能な財政、持続可能なまちづくりに、私自身も困難な道ではありますが、覚悟を決めて取り組んでまいります。

さて、京都議定書誕生の地として環境問題。皆さんが50歳になられる時に、2050年にCO2をゼロにしなければ、地球の、人類の未来はありません。レジリエントシティ、そして、国連で決めましたSDGs、誰一人取り残さない、経済の発展と環境問題を一致させて取り組んでいく。このSDGsについても、全国でトップという評価をいただいております。皆でより一層努力してまいりましょう。

結びになりますが、コロナの感染は厳しい状況であります。大切な人にうつさないためにも、新しい生活スタイルの徹底をよろしく申し上げます。皆さんの人生が豊かなものになりますように、御祈念申し上げます、私ともも努力することを誓って、お祝いの言葉とさせていただきます。おめでとうございます。